

下諏訪宿雅楽公演会

千二百年の歴史ある情緒豊かな出湯の里 下諏訪宿は、中山道・甲州街道の分岐点として多くの旅人を迎えてもてなし、旅人たちの持ち込んだ異文化を地域の文化に溶け込ませながらも、固有の歴史を創り上げて参りました。

地方と都市との画一化が進み、日本古来の文化が風化して行く昨今、下諏訪町を愛する一人として、この町の歴史と文化の伝承を未来へ向けて発信し続ける必要を感じます。

今回は、平安時代から雅楽を伝承してきた楽家、園家当主 園隆博先生をお迎えして舞楽の公演を致します。日本古来の文化の素晴らしさを皆さんに体感していただき、下諏訪の歴史や文化と共に次の世代への心の育みになればと思います。

ががく ぶがく 雅楽と舞楽

雅楽は「雅正なる音楽」の意味で、後世に好まれるようになった俗楽とは区別されています。日本古来の歌舞曲、三世紀頃朝鮮半島から伝えられ始めた歌舞、後で中国大陸から伝承された歌舞を、宮廷や神社仏閣の祭祀式典音楽とし、平安時代に雅楽寮を設置、管理するようになり徐々に現在の形に整理されてきました。以後主に、京都宮中の「大内楽所」、大阪四天王寺の「天王寺楽所」、奈良の「南都楽所」の三方楽所で明治時代まで伝承されてきました。明治維新後は三方楽所の楽家楽人たちが明治天皇に召され上京し、宮内庁式部職楽部楽師として国家行事で演奏をしています。

舞楽には朝鮮半島系から伝承されたとする高麗楽右方舞と、中国大陸系伝来の唐楽左方舞とがあります。

雅楽には楽器だけの合奏曲・管絃と、舞を伴った舞楽がありますが、舞人も楽器の演奏を習得しなければならぬのが洋舞との違いです。楽譜の書き方も楽器ごとに違い洋楽譜のように完全なものではなく、必ず師匠から教わらなければ習得できません。

今回の公演は舞楽だけで構成されており、巫女舞、平舞、走舞、右方舞、左方舞と変化に富んだ内容となっております。また、同じ楽曲でも管絃と舞楽ではテンポが違い、右方舞の特徴的な旋律、左方舞の勇壮な舞などを平安貴族になつた心地でお楽しみください。

そのけ そまくしや 園家と「蘇莫者」

「蘇莫者」は聖徳太子（一説には役行者）が信貴山に行かれる途中笛を吹いていたところ山の神が山を駆け下りてきて笛に合わせて舞ったと言ういわれがあり、これをもとに四天王寺の楽人が舞を創ったと言われています。四天王寺の楽家、園家が明治まで一子相伝で伝えてきた舞です。

園家は楽器・笙と左方舞を伝承する家系で、特に左方舞「蘇莫者」は園家伝承の舞として明治まで一子相伝を固く守ってきました。

残念ながら園家は後継男子に恵まれず、隆博先生が最後の「正統蘇莫者伝承者」になつてしまわれました。

園隆博先生は、宮内庁式部職楽部首席楽長を務められました。（宮内庁楽部楽師の演舞は国の重要無形文化財に指定されており、楽部楽師は重要無形文化財保持者に指定されています）

* * * * *

諏訪の地で、園隆博先生の蘇莫者が舞われる事は、多くの方々の熱意とご協力で実現するもので、皆様と共に諏訪の神々もこの舞楽公演を楽しみにしておられることと思います。

吉千年の歴史ある園家の蘇莫者を、一人でも多くの方の脳裏に焼き付けて戴きたいと思っております。